

作業やからだを動かすことに できるだけ長時間取り組む子

八 木 恵 美 子

はじめに

自閉的傾向の強いK子は、知的に中度で、少しは見通しがもてることが逆に支障になって「～しよう」と言うと、「微熱があるからいや」と理由をつけたり、「したくない」と拒否したり、お手伝いやからだを動かすことを好まない子である。そこで、K子がわずかではあるが、興味を持っている調理活動を家庭との連携を図りながら指導していき、調理を通してからだを動かす楽しさを覚えさせ、少しずつ他の作業にも取り組めるようになってきた様子を述べてみたい。

1. 対象児のプロフィール

(1) 生育歴

- 昭和52年12月1日生 中2(女子) 発語が遅く、2才の時、児童相談所、京都女子大で自閉的傾向、精神発達遅滞と診断される。
- 家庭保育4ヶ月、W学園に2ヶ月、J保育園に1年10ヶ月通ったが、ことばもなく集団の中に入っていきことができず、ほとんどひとり遊びであった。
- 市内K小学校に入学、心障学級に入った。1年～6年まで「ことばの治療教室」に行き、ようやく3、4年生頃から会話ができたし、発音もはっきりしてきた。
- S63年4月、本校中学部に入学し現在に至る。

(2) 諸検査の実態、様子

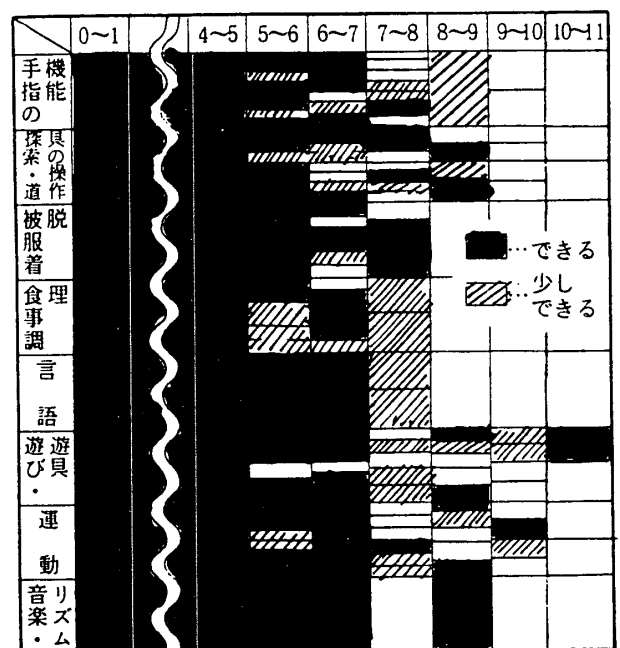
① 津守式乳幼児発達検査(平成元年5月)

運動 6 : 5	探索 5 : 0	社会 4 : 5
生活習慣 6 : 5	言語 6 : 5	

本児は、探索、社会に劣るが、全体に6才前後の発達である。内容的には、知識、技能の面での得点は高く、対人関係の必要な項目に劣る。また、実際には、知識、技能が生活行動として生きていない。

② からだの輪郭表

手指の機能、道具の操作、食事、調理で5～6才に不十分さを残している。内容的には、動くことが嫌いだったり、過保護であるための未経験な積み残しである。



(からだの輪郭表)

(3) 家庭環境

両親、祖父母、高校生の姉2人と本人の7人家族である。小さい時から母親、祖母が家にいて女手があり、K子にできることでもみんな大人がしてしまったり、炊事、洗濯、掃除の手伝いなどもさせていなかった。3人姉妹の末っ子でもあり、甘えていてわがままにみられる。

家族で食事に出たり、ハイキングに行ったりと、よく外に連れて出てもらっていて、家族とのつながりは深い。両親共、教育熱心で学校に対しても協力的である。

(4) 性格行動上の特徴

- 本を読んだり、写真を見たり、手紙を書いたり、結婚式の話が好きである。空想の世界を作る。
- 自分なりのパターン化した見通しを持っていて、なかなか他と妥協できないことが多い。
- 行事等、楽しみにして待ち、自分で準備したり、参加することができるが勝手な行動が多い。
- 嬉しい時、怖い時に緊張が強く、大声を出したり、自傷行為がある。ねている人を怖がる。
- 掃除、農園作業など、やりたくない時には、いろいろと理由をつけて避けようとするが、好きなこと、好きな話、家族の話などを支えに、少しずつ頑張る場面も見えだしている。

2. 指導の方針と方法

(1) 指導の仮説

読み書き、計算ができ、本校の段階別教育内容表でも「表現化」は、4段階がほとんどできる。しかし、1の(2)でも述べたように、得点は高いが、それが実際の生活には、ほとんど生かされていない。このように、できる力を持っていながら、からだを力いっぱい動かさなかったり、力を十分に発揮していないK子に、何とか意欲的に活動させたいと思い次のような仮説を立てた。


まず、近い目標と楽しみのある見通しを持たせ、からだを動かして目標を達成させる。目標をやり遂げた喜び、満足感を大好きな家族と共有させる。家族に誉められたり、喜ばれたりした事が、自信や安定につながって、意欲もでてくるのではないか。そのことが、学校でもまた喜んでからだを動かし、みんなと一緒に取り組める子になるのではないかと考え、「近い目標、楽しみのある見通し」を柱に、家庭との連携を中心に研究を進めることにした。

(2) 指導の手だて

- ① 自分がすること、作る物が、人（特に家族）に喜んでもらえる、使ってもらえるという近い目標を持たせ、意欲をもり上げ、からだを動かさせ目標を達成させる。
- ② 興味のあること、好きなことを中心に、短い目標からだんだん集中できる時間や場をきめ、持続できるようにする。
- ③ 目標を達成したら、認めて十分に誉め、満足感を与え自信をもたせる。
- ④ 家庭との連携を密にして、学校でしたことを家でも自分でさせたり、毎日、自分にできるお手伝いをさせたりして、家族に喜んでもらう。その様子は、「朝の会」でクラスの友だちに知らせ、みんなで誉め自信をもたせる。

3. 実践例

○調理を中心に家庭との連携をとりながらの実践（△……マイナス例、◎……プラス例）

月	単元	学校での様子	手 だ て	家庭での様子
四月	第一回宿泊学習	△買い物に喜んで行くが、カレー作りはせず、片づけもしないでテレビを見ている。 △シーツかけ、持ち物の整頓をしない。	<ul style="list-style-type: none"> •「宿泊だより」等で、宿泊の様子を連絡。 •家庭訪問でお手伝いをさせるように、願います。 	<ul style="list-style-type: none"> •母親との話し合い後、掃除や調理の手伝いを心がけられる。 △まだまだ長続きせず、「今日は頭がいたいからいや」等と、しない事も多い。
五月	ベクンとう作り	△おにぎりをしようとしたが、手をなめたり、つまみ食いをしたりする。 ◎クッキー作りは、お母さんにあげるのを楽しみに喜んで粉をこねる。	<ul style="list-style-type: none"> •ラップで包む、型はめ等、工夫をし、ほめて作らせる。 •頑張った様子を家庭に知らせ、誉めてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎家でも、おにぎり作りをする。 校外学習には、母子合作の弁当を作る。 ◎手紙をそえて渡し、とても喜ばれ得意になって家でも作った。
六月	野外炊飯	◎飯盒でご飯を炊くのがめずらしく進んで取り組む。 ◎たまねぎや、じゃがいもの皮をたくさんむき、カレーやシチューを作る。 ◎キャベツや、もやしを洗って焼きそばを作る。 △はじめは、火が怖くて近よらない。	<ul style="list-style-type: none"> •火を怖がったので、軍手をさせ、教師と一緒に取り組ませる。 •家でも作ってみるように、作り方をもう一度たしかめる。 	◎学校でしたカレー、シチュー焼き肉、焼きそば等、みんな献立に入れられ、手伝われる。進んで手伝いができる。
七月	第二回海泊学習校	◎米を計り、何回もといでご飯を炊く。 ◎自分の係の仕事がすむと、豚汁の方も手伝う。 ◎後片付けをみんなと一緒によくする。	<ul style="list-style-type: none"> •1回目の宿泊に比べ、とてもきまりよく、手伝いがよかったことを家庭にくわしく報告、誉めてもらう。 	◎家で誉めてもらい得意になって米を計り、自分でといでご飯を炊く。 ◎後片付けも手伝うようになった。
八月	夏休み		<ul style="list-style-type: none"> •生活ノートにお手伝いの欄を作り、お手伝いをきめて継続して取り組むことを指示する。 	◎母子で夕食の献立を考え、ほとんど毎日、調理を手伝った。 ◎肉じゃがが得意の料理で、「味はどうですか」と聞き、誉めてもらい満足する。 ◎9月も、ずっと手伝いを続けてしている。
九月	運動会			

このように調理を中心に、家庭との連携を図りながら進めてきた。調理では、楽しみにして、少しの声かけで、「やってみよう」と、少しずつ取り組むようになり、よい姿が見えてきた。この力は、他の生活にも少しずつ広がってきた。

例えば、

軽作業では

毎週、土曜日の2、3校時は、中学部全員でバインダーの吊り金入れをしている。K子の横に

教師が座り、「あと100個がんばろう」などと声かけをしたり、「儲けたお金で『臨海学校』に持って行くすいかを買おう」と見通しや楽しみを持たせながらさせた。6月29日、30日と「さざなみ作業所」で職場実習をしたが、2日間共、時計を見ながら、バイダーの吊り金入れを頑張っていた。夏休み中にも10日間通って、午前中に300個した日もあった。「あと何個したら何百になる」「山に積んであるのがすんだら終わり」「儲けたお金で何を買おう」などといった見通しをもって取り組むことが少しずつできた。作業所からいただいたお金で、敬老の日におじいちゃんとおばあちゃんに箸を買ってあげ喜んでもらった。



農園作業では

みんなで、夏大根やトモロコシの種をまいたり、夏野菜の苗を植えた。「水やりは手がいたくなるからいや」「草取りは、手が汚れるからいや」と言っていたK子に、「水やりや草取りをしないと大きくなるよ」「みんな枯れてしまって食べられないよ」などと、ゆさぶりをかけながら見通しをもたせていった。家に持って帰ることを楽しみにしていたK子は、「大きくなったら持って帰ってみんなに見せてもいいですか」「みんなでコーンシチュウを作って食べましょう」などと言いながら、収穫を楽しみにして草取りをしたり世話をしだした。なかでも水やりは、夏の暑い日でも、ジョロにいっぱい水を汲み、遠い所を何回も通って頑張った。

4. 考察と今後の課題

5月、6月頃は、作業やからだを動かすことになると、何とか理由をつけて避けようとしていたK子が、調理場面で家族や教師の声かけや励ましによって、みんなと一緒に少しずつ取り組めるようになってきた。

そして、**できた** → **認められる** → **満足** → **また、やってみよう** と、いう気持ちから、今まで家であまりお手伝いをしなかったK子が、調理の手伝いをしだした。家の人に認めてもらい、喜んでもらうことによって自信をもち、調理だけでなく、掃除やミシン縫いも少しずつ取り組みだした。こうして、いろいろ経験を積み重ねて、ミシン、庖丁、ほうき、雑布などの使い方だんだん「生きて働く力」となってきつつあると考える。

また、運動でからだを動かすことに少しずつ喜びを感じ、サーキット等、声かけ、励ましで少しずつみんなと一緒に頑張ろうとする様子が見えてきたことは、大きな進歩であると思う。

今後は、友達や教師の声かけが少なくても、自分から見通しをもって、いろいろなことにみんなと一緒に取り組んでいけるよう指導していかなければならないと考える。

